

山本敏文（やまもととしふみ）先生

横浜市立大学大学院総合理学研究科 分子認識部門

山本先生の研究分野は、脳疾患の神経薬理学、生化学です。主に、ドーパミン神経系の機能異常を中心に研究を進めています。この中で、統合失調症（精神分裂病）の病態、そして関連する薬物依存について、ドーパミン受容体、NMDA 受容体やセロトニン受容体の調節機能の変化を中心に研究しています。また、ドーパミン神経細胞の特異的変性脱落を特徴とするパーキンソン病の病因、病態については、山本先生の大学院学生の頃からの研究テーマだそうです。現在は、ドーパミン神経細胞の特異的細胞毒性発現機構の解明を目指し、一酸化窒素（NO）の役割について研究していらっしゃいます。

また、山本先生は民間企業の研究所で研究した経験をお持ちです。

山本先生いわく、

大学と民間企業の研究で違うことは、データの信頼性を何よりも重要と考えています。民間企業での厳しさは大学とは格段に違い、「間違えてごめんなさい。もう一度やり直します。」ではすまないのです。もう一つは、助け合うことの大切さです。研究は役割を分担したチームとして進められており、良い結果を得るには相互の協力が不可欠です。大学での個人の研究でも、自分の研究のことしか考えない研究者にはなりたくはないし、学生にもそのようにならないように指導を心がけています。

とおっしゃっています。